

第四條

晨起後直ニ衾褥ヲ收メ室内ヲ掃除シ土曜日ニハ午後第四時迄ニ大掃除ヲナスヘシ

第五條

午後第九時人員檢査トシテ舍長巡視ノ節ハ各々室内ニ端坐スヘシ  
但撃柝ヲ以テ之ヲ報ス

第六條

午後第九時ヨリ音讀ヲ止メ第十一時ニ至レハ燈火ヲ滅シテ寢ニ就クヘシ

第七條

門限

三月一日ヨリ四月三十日迄

午後第六時

五月一日ヨリ七月十日マテ

同 第八時

九月十一日ヨリ十月卅一日マテ

同 第七時

十一月一日ヨリ二月廿八日マテ

同 第五時

第八條

毎日散步時間ハ晚餐後ヨリ門限迄トス

第九條

休業日ハ晨起ヨリ門限迄外出ヲ許ス

第十條

事アルトハ取締生ヨリ舍長ヘ届出ヘシ

第十一條

信行ヲ慎ミ信義ヲ以テ相交ルヘシ

第十二條

飲酒雜談小説稗史無用ノ器具等總テ風儀ヲ亂シ勉強ヲ妨クルノ舉動アルヘカラス

第十三條



貨幣等ヲ貸借スヘカラス

第十四條

疾病ニテ醫局ノ診斷ヲ受ントスル者及ヒ親族ノ急病等ニ趨ントスル者ハ取締生並ニ舎長ヲ經監事ノ許可ヲ得テ外出スヘシ

第十五條

病氣ニテ缺課シタル日ハ外出スヘカラス

第十六條

應接所ノ他外人ニ接遇スヘカラス

第十七條

舎長ノ許可ヲ經サレハ諸物品ヲ門外ヘ出スヘカラス

第十八條

物品ニハ各自ノ姓名ヲ記シ互ニ混雜スヘカラス

第十九條

使丁ヲ門外ヘ役スルハ勿論舎内ト雖モ猥リニ使役スヘカラス若シ止ムヲ得サルノ事故アレハ其部屋ニ到リテ之ヲ談スヘシ

但重病ノ節ハ此限リニ非ス

第二十條

三餐必ス食堂ニ於テシ其時限ニ違フヘカラス  
但重病ノ節ハ此限リニ非ス

第二十一條

茶菓ノ外猥リニ飲食スヘカラス

第二十二條

疾病或ハ事故アリテ昇校シ難キ者ハ課業時間三十分前ニ第五號書式ニ依リ取締生ニ届出取締生ヨリ舎長ヲ經各檢印シテ之ヲ監事ニ出スヘシ



但疾病二日以上ニ至レハ醫局ノ證書ヲ添ヘシ

第廿三條

外出中急病或ハ事故アリテ門限ニ後ル、キハ第八號書式ニヨリ其事由ヲ保証スル者ノ明細書ヲ持歸リ取締生及ヒ舍長ヲ經テ之ヲ醫學校宿直ニ差出スヘシ  
但重病等ニテ歸舍シ難キトキハ醫局ノ診斷ヲ受クヘシ

第廿四條

止ムテ得サル事故アリテ外泊セントスルキハ本日午後第二時迄ニ第九號書式ニヨリ其事由ヲ保証スル者ノ明細書ヲ添ヘ取締生及ヒ舍長ヲ經テ監事ニ願出ルトキハ詮議ノ上之レヲ許スヘシ

但監事退校後ナレハ是レヲ醫學校宿直ニ差出スヘシ

第廿五條

暑中并ニ歲末休業中ハ退舍スル事ヲ許ス

但開業三日前必ス歸舍スヘシ

第廿六條

賄料ハ每月末舍長之ヲ取纏メ監事ニ差出スヘシ

第廿七條

舍則ヲ犯ス者アレハ舍長ヨリ監事ニ申出ツヘシ  
右之條々堅ク可相守者也

第七章

學 曆

一 開校

一月八日

一 開業

每日午前第九時ヨリ午後第三時ニ至ル  
但五月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前第七時ヨリ正午第十二時ニ至ル



- 一日曜日 休業
- 一土曜日 休業 午後
- 一孝明天皇祭 休業 一月三十日
- 一紀元節 休業 二月十一日
- 一神武天皇祭 休業 四月三日
- 一二年二期
- 前期 十一月一日ヨリ 後期 四月十一日ヨリ
- 四月十日マテ 十月卅一日マテ
- 一終期試験
- 前期 四月一日ヨリ 後期 十月廿一日ヨリ
- 同月七日マテ 同月廿七日マテ
- 一春季皇靈祭 休業 春分
- 一夏季休業ノ始メ 七月廿二日
- 一夏季休業ノ終リ 八月廿日

- 一神嘗祭 休業 十月十七日
- 一秋季皇靈祭 休業 秋分
- 一天長節 休業 十一月三日
- 一新嘗祭 休業 十一月廿三日
- 一冬季休業ノ始メ 十二月廿四日

第八章

書式

第一號 用紙半紙

入校願

私儀醫學志願ニ付御試験ノ上醫學校入學御差許相成  
 度然ル上ハ御校則堅ク相守候ハ勿論卒業ノ上御定限



ノ義務相盡シ可申候依之別紙履歷書相添此段奉願候  
以上

族籍

誰子弟

年號月日

姓名印

何年何月生  
何年何月何年何月

宿所府縣國郡町村番地

當時番地誰方寄留

群馬縣醫學校

御中

第二號 用紙半紙

履歷書

族籍

誰子弟

姓名

何年何月生  
何年何月何年何月

何年何月ヨリ何年何月迄何學校或ハ教師誰ニ就キ小  
學科或ハ何學脩業其後何塾ニ入或ハ何誰ニ從ヒ脩業  
都合何年間在學



第三號 用紙証券界紙

保證狀

府國郡村町番地

族籍

姓名

何年何月生  
何年何月何年何月

右者今般御検査ノ上入學御聞届醫學公費生ニ御採用  
相成候上ハ御規則堅ク爲相守卒業ノ上御定限ノ義務  
爲相盡候ハ勿論半途退學等爲致申間敷万一事故有之  
學資償還等ノ儀ハ申ニ及ハス本人身上一切ノ事件私  
引受辨理可致若シ私旅行或ハ他管下へ移住ノ節ハ代

証人相立可申候依テ保証狀如斯候也

族籍

年號月日 姓名印

宿所本縣管下郡村番地

住居或ハ番地寄留

群馬縣醫學校

御中

前書之通相違無之ニ付奥印致候也

戸長

姓名印



第四號 用紙西ノ内

御校公費生何誰証人  
 族籍  
 姓 名  
 印鑑 ○  
 宿所本縣管下郡町村番地住居或ハ寄留  
 年 號 月 日  
 五 寸

第五號 用紙半紙十二切

舍長印 ○ 取締生印 ○  
 何事故或ハ病氣ニ付本日缺課  
 第何號寄宿  
 何誰印  
 月 日

第六號 用紙半紙

歸校御届  
 御校公費生  
 姓 名



右者今何日午前第何時ヨリ何々ノ儀有之私方へ罷越  
午<sup>前</sup>后第何時何分歸校爲致候此段御届申上候也

町村番地住或ハ寄留

年 號 月 日 姓 名 印

群馬縣醫學校

御 中

第七號 用紙半紙

歸家療養願

御校私費生

姓 名

右者病氣ニ候處不日全快ノ見込モ無之何々ノ情實有  
之候ニ付自宅ニ於テ養療爲致申度親戚一同之志願ニ  
候間御届被成下度候也

町村番地住或ハ寄留

年 月 日 保 証 人 姓 名 印

群馬縣醫學校

御 中



第八號 用紙半紙

遅刻届

御校私費生

姓名

右者何病或ハ何々ノ事故差起リ無據御門限ニ相後レ候ニ付此段保証仕候也

町村番地住或ハ寄留

年號月日 姓名印

群馬縣醫學校

御中

第九號 用紙半紙

外泊願

御校私費生

姓名

右者何々ノ事故差シ起リ候ニ付本日午前第何時ヨリ明何日何時迄何町何番地何誰宅ニ一泊致シ該事辦理致度段情實相違無之ニ付此段保証仕候也

町村番地住或ハ寄留

年號月日 姓名印

群馬縣醫學校

御中



用紙大奉書四ッ切

醫學校印

群馬縣醫學校

第 級生

族 籍

姓 名

年 齡

第 期醫學科卒業候事

年 號 月 日

群 馬 縣

醫 學 校

用紙鳥ノ子横一尺  
竖八寸

醫學校印

族 籍

姓 名

年 齡

醫學全科卒業候事

年 號 月 日

群 馬 縣

醫 學 校

總理姓名印

第十二號

用紙半紙

入舍療養願

族 籍

宿 所

姓 名

年 齡

右之者病氣ニ付入舍之上御療治相受ケ申度志願ニ候  
間御聞届被下度然ル上ハ御舍則堅ク爲相守可申ハ勿  
論當人身上一切ノ事私引受如何様ノ事出来候共辨理  
可仕候間此段奉願候也

族 籍



年號月日 姓名

宿所郡町番地或ハ寄留

群馬縣

醫學校

御中

第十三號 用紙半紙

貧民施療願

族籍

宿所、、、、

姓名

年齡

右之者病氣ニ候處元來貧窮ニシテ療養ノ手當無之ノ  
ミナラス親族中孰レモ救助致シ候程ノ資力アルモノ  
無之候ニ付御詮議ノ上御施療被成下度萬一當人死去  
致シ候時ハ埋葬其他一切ノ事私辦理可仕候ニ付此段  
奉願候也

族籍

年號月日 姓名印

宿所郡町番地或ハ寄留

群馬縣

醫學校

御中

群馬縣布達全書卷之十

九十八



第十四號 用紙半紙

貧民給助入舍願

族籍

宿所、、、、、

姓名

年齡

右之者病氣ニ候處元來貧窮ニシテ療養ノ手當テ無之  
ノミナラス親族中孰レモ救助致シ候程ノ資力アルモ  
ノ無御座候ニ付御詮議ノ上御校病舎ニ於キテ御施療  
被成下度然ル上ハ御舍則堅ク爲相守候ハ勿論同人万  
一死去致候時ハ埋葬等ニ關スル事件ハ私一切辦理可

仕候間此段奉願候也

族籍

年號月日

姓名印

宿所郡町番地或ハ寄留

群馬縣

醫學校

御中

前書之通相逢無御座候也

戸長

姓名印



第十五號 用紙半紙

解屍願

私儀病氣ニ付御施藥奉願御開届ニ相成リ(賄料)藥價等御給與之上厚ク御療養被成下候段難有奉存候然ル處到底難治ノ病症ニ付テ全快之目途モ無之哉ニ被存候ニ付万一絶命致候時ハ死體患部解剖被成下度之レニ依リテ自然醫學御研究ノ一端共相成御鴻恩ノ萬分ニモ奉報様相成候時ハ私ニ於テ本望ノ至ニ候條此段豫テ奉願上候以上

年號 月 日 本人 姓名印  
親族 姓名印

保証人 姓名印

群馬縣醫學校

御 中

第九章

生徒罰則

第一條

此事項ヲ犯ス者ハ三日ヨリ少ナカラズ一週間ヨリ多カラサル禁足ヲ命スヘシ

第一項 教場ニ於テ教師ノ指令ニ違フ者

第二項 教場出席ノ時刻ニ違フ者



第三項 教場ニ於テ教師ノ指令ヲ待タズシテ猥リニ意見ヲ述ル者

第四項 教場ニ於テ書籍器械ヲ取亂ス者

第五項 教場ニ於テ雑話スル者

第六項 猥リニ會合雜談ヲナシ或ハ稗史小説ヲ讀ミ及ヒ無用ノ書畫等ヲ玩弄スル者

第七項 放歌吟詩及ヒ疾走高聲スル者

第八項 室内ノ掃除ヲ怠リ書籍器械衣服等ヲ取亂ス者

第九項 食事ノ時間ニ違フ者

第十項 就寢ノ時間ニ違ヒ他人ノ安眠ヲ妨クル者

第十一項 定規時間ノ外猥リニ縦覽所ヘ入ル者

第二條

此事項ヲ犯ス者ハ一週間ヨリ少ナカラズ二週間ヨリ多カラサル禁足ヲ命スヘシ

第一項 金錢衣服等ノ貸借ヲナス者

第二項 許可ナク外來人ヲ室内ニ入ル者

第三項 建物等ニ瑕ヲ付或ハ樂書スル者

第四項 外出ノ節名牌ノ取扱定規ニ違フ者

第五項 猥リニ他人ノ室内ニ入り勤學ヲ妨クル者

第三條

此事項ヲ犯ス者ハ二週間ヨリ少ナカラズ三週間ヨリ多カラサル禁足ヲ命スヘシ

第一項 監事ノ許可ヲ受ケズシテ教場ニ闕席シ或ハ偽テ病ト稱シ課業ヲ勤メサル者

第二項 喧嘩口論ヲナス者

第三項 物品ヲ粗畧ニシ遺失毀損スル者

但其代價ヲ賠償セシム



- 第四項 定規ノ外許可ナク外出スル者
- 第五項 歸舍門限ニ違フ者
- 第六項 室内ニ於テ飲食スル者

第四條

此事項ヲ犯ス者ハ三週間以上ノ禁足ヲ命シ重キ者ハ退學ヲ命ス

- 第一項 學校長監事教員等ノ教令ニ違背スル者
- 第二項 許可ヲ得スシテ他ニ宿泊スル者
- 第三項 數度教則ヲ犯ス者
- 第四項 一已ノ私ヲ狹ニ他生ヲ煽動シ監事及ヒ學校長ニ抗スルノ類
- 第五項 校外ニ於テ不體裁ノ舉動アル者

第十章

醫局規則

第一條

本局ハ病床實驗ノ用ニ供スル者ナリ

第二條

診察時限ハ午前第九時ヨリ午後第二時迄トス

但大暑ノ節ハ正午十二時ヲ限トス

第三條

入舍治療ヲ乞フ者ハ第十二號書式ノ願書ヲ事務掛ニ差シ出スヘシ

第四條

貧民藥價并ニ賄料ヲ納ムルコト能ハサルモノハ第十三號書式ノ願書ヲ認メ醫學校ヘ差シ出スヘシ

但シ癩疾ト診斷スルモノハ其願ヲ許サス

第五條



病者解屍ヲ願フ者ハ第十五號書式ノ願書ヲ差シ出スヘシ

### 第六條

醫局專務ノ助教ニ名宛宿直ヲナシ退局後及ヒ休日ノ醫務ヲ取扱フヘシ  
但一名ハ自宅ニ於テ相心得報知ニ依リ急病ヲ回診スルモ妨ケナシ

### 第七條

來診ヲ乞フ者アレハ一里未滿ノ地ハ之レニ應スヘシ

但一里以上ト雖モ本局ノ都合ニヨリ之レヲ許スコアリ

### 第八條

病者生前ノ願ニヨリ解屍スルトキハ其解體ヲ縫合シ埋葬吊祭スヘシ

### 第十一章

#### 藥局規則

### 第一條

藥劑員輪番ヲ以テ宿直スヘシ

### 第二條

處方箋ニ從ヒ精密ニ調劑シ坪量ヲ忽カセニスヘカラス

### 第三條

瓶藥袋等ニハ姓名藥名分量用法ヲ詳記シ患者ヲ以テ解シ易カラシムヘシ

### 第四條

醫術器械ヲ備ヘ置クヘシ

### 第五條

藥價ハ相當ヲ以テ徵收スヘシ

### 第十二章

#### 病舎規則

一病舎に上中等下等の分ちあり

病者の心得



- 一 上等中等下等何れも食料等に差別あれども藥品は勿論一切治療に附きたる事は上等にても下等にても同様たる事
- 一 上等中等は費用を納めども下等は窮民治療の爲に設くるを以て一切之を支給す但窮民入舎は十人を以て限りとす
- 一 上等室に入るものは一日金五拾錢中等室に入る者は一日金貳拾五錢の費用を納めども
- 但藥價は此限にわらず
- 一 當舎は醫學生徒實地治療を演習する爲に設けたる者なれば教師の指圖に任せ差支無之様豫て心得置へき事
- 一 治療は總て教師の擔任する所にて生徒は診察するも之に關かはらず
- 一 主療者并に看病人の言葉に悖くへからざる事
- 一 身體衣服を清潔に可致事

- 一 一回診前には帶類鈕釦等を解き各々其寢所を離れず診察を可待事
- 一 一回診中は談話喫煙すへからざる事
- 一 主療者の許さなくて猥りに飲食すへからざる事
- 一 夜分は取分け安靜に致し他人の睡眠を妨くへからざる事
- 一 喧嘩口論は申す迄も無之總て劇談高語等致す間敷事
- 一 主療者の許さなく猥り又他行すへからず若し據なき用向ある時は其旨看護掛へ申出差圖を受くへき事
- 一 據なき事ありて外宿せんとする時は其旨請人より可願出事
- 一 金銀の貸借は勿論一切品物等遣り取り致すへからざる事
- 一 看病人へ金銀品物等一切差遣す間敷事
- 一 若し看病人に不行届の事あれば早々看護掛へ可申出事
- 一 男女の病室は互に出入すへからず若し無據用向ある時は看病人を同道致すへき



事

右之條々堅く相守るべきもの也

第十三章

生徒試験法

第一條

試験ニ小試験終期試験大試験ノ三様アリ

第二條

小試験ハ每期二回終期試験ハ一年二回大試験ハ卒業ノ時之レチ行フ

第三條

小試験ノ落第二回ニ及フモノハ其ノ終期試験ニ加ヘス

第四條

小試験ハ三ヶ月毎ニ之チ行フ

第五條

小試験題數ハ毎科六題終期試験ハ毎科十題大試験ハ毎科二題トス

第六條

小試験及ヒ終期試験ハ全題半數チ得ルモノチ及第トス

第七條

大試験ハ全題チ答ヘ得ルモノチ及第トス

第八條

及第チ甲乙丙ノ三等ニ分チ小試験ハ六題全可チ甲トシ五題チ乙トシ四題チ丙トス  
終期試験ハ十題全可チ甲トシ九八題チ乙トシ七六題ヲ丙トス

第九條

大試験ハ及第チ二等ニ分チ終期試験毎ニ各科悉皆甲チ得タルモノチ優等トシ甲及



乙ヲ得タルモノヲ第一等トシ三回以上甲或ハ乙ヲ得タルモノヲ第二等トシ甲及ヒ乙ヲ得ルコト三回ニ及バサルモノヲ第三等トス

第十條

小試験ノ時間ハ午前第八時ヨリ正午十二時迄トシ終期試験ハ右ノ時間ヲ以テ二日間大試験ハ同様一日一科トス

○無號

明治十二年七月十二日

今般 皇太后宮管下群馬郡伊香保温泉へ 行啓來ル十七日東京 御發與御達有之候條 御通與ノ節左ノ通可相心得此旨布達候事

一御通與拜觀勝手タルヘキ事

一御通與ノ節ハ笠或ハ帽ヲ脱シ路傍ニ寄り謹而敬禮可致事

一庶民營業平日之通

○無號

明治十二年七月十九日

零

○無號

同

卅一日

同

○無號

同

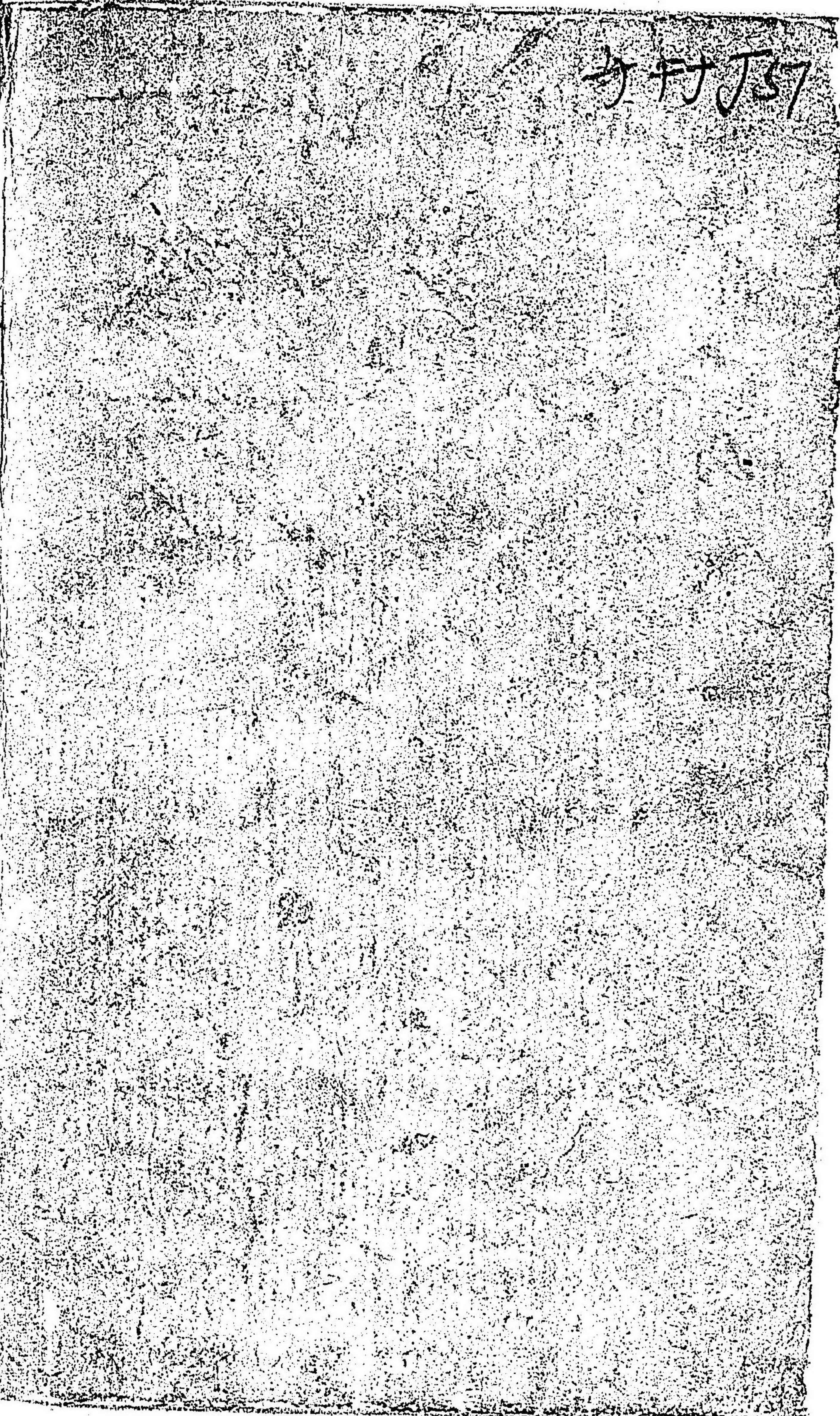
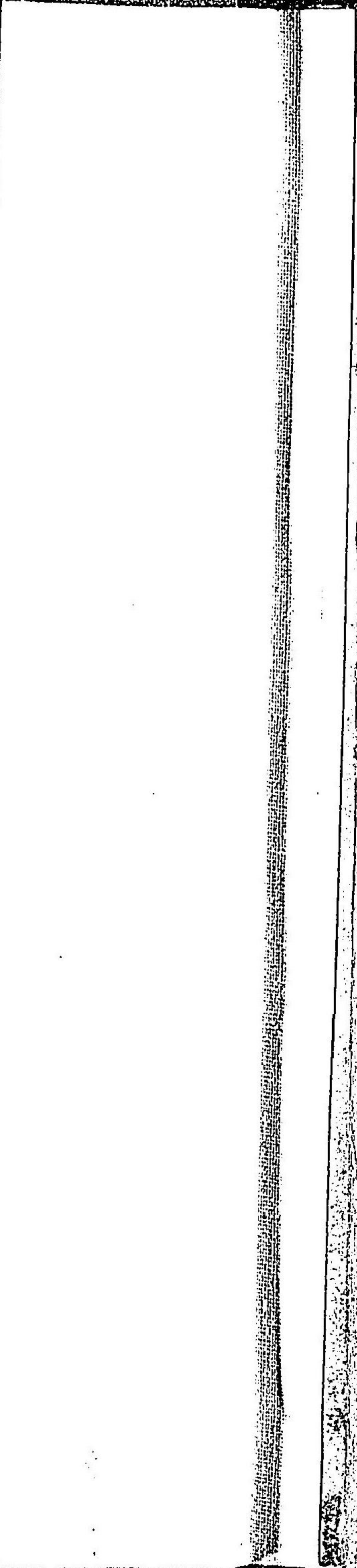
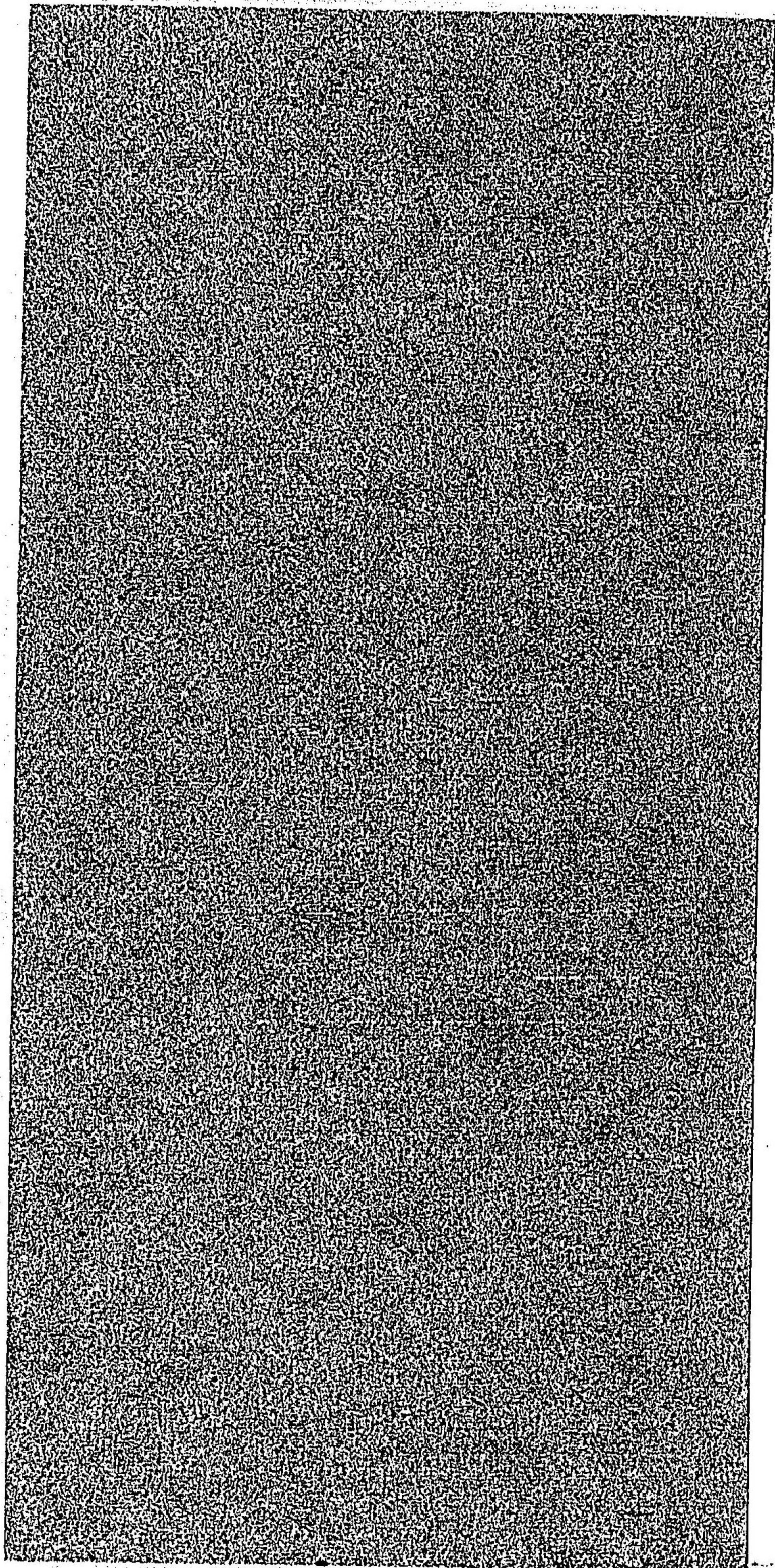
八月廿三日

同



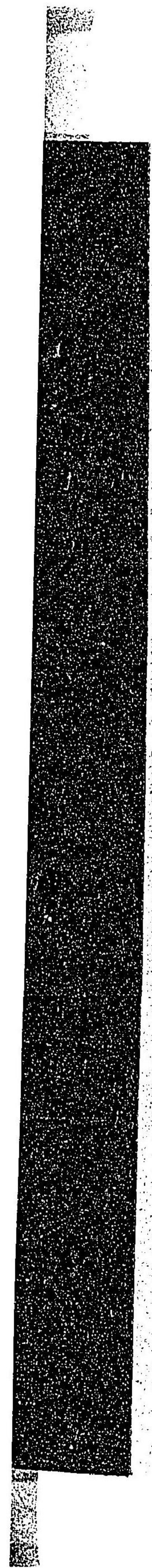
群馬縣布達全書卷之十終





Handwritten text in the top right corner of the right page, possibly reading "97157".







禁電子式複写